2021年4月21日発行（3・6・9・12月20日 年4回発行）通巻259号　ISSN 0289-6478

https://www.jeiu.or.jp/

電機連合

組合役員をサポートする実用情報誌

電機ジャーナル
DENKI JOURNAL

春号
vol.259

東日本大震災から10年
「今」につなぐ をつなぐ

特集1　電機連合復興ボランティア

特集2　あらためて確認！防災のキホン

デン博士&レンちゃんの知っておきたいKey Word［第2回］
SNSを有効活用「おもな種類や特徴をつかみ、ニューノーマルにいかそう」

New Member
桑原電工労働組合／福島太陽誘電労働組合

大使館だより from INDIA
在インド日本国大使館 一等書記官　赤石 賢生

東日本大震災から10年

「今」につなぐ をつなぐ

2011年３月11日に東日本大震災が発生してから、今年で10年。国内観測史上最大規模の地震は、被災地に未曾有の被害を与えたばかりではなく、国民生活や企業活動のすべてに影響を及ぼしました。

電機連合はこれまで続けてきた被災地支援やボランティアなどの取り組みを今後も継続していくとともに、防災・減災の活動につなげていきます。

特集１　電機連合復興ボランティア
特集２　あらためて確認！防災のキホン

電機連合復興ボランティア

「今」へつないだ10年の絆

電機連合は東日本大震災以降、10年にわたって様々な取り組みを続けてきました。被災地を支援するだけでなく、私たちも自然災害の脅威や防災の重要性を学び、環境保全・保護の大切さを学ぶ機会となっています。

2011年4月

震災直後は連合ボランティアの一員として被災地の最前線へ。危険の伴う作業もありましたが、現地のニーズに応え、がれきの撤去や支援物資の仕分けを行いました。

▲避難所でのパーテーションづくり。ものづくり現場で培った力を発揮し、現地の方からは、「他の小学校のパーテーションより美しい仕上がり」と喜んでいただけました。

2014年～

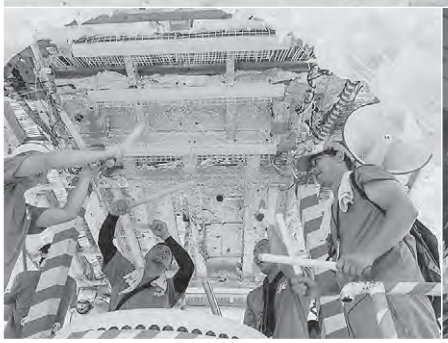
電機連合独自のボランティアを開始。「被災地と心をつなぐ活動」をコンセプトに岩手県陸前高田市で高田松原の再生に向けた活動や地元の七夕祭りに参加し、被災地の皆さんに寄り添う活動を実施しています。

２０１１年４月１日。連合ボランティア第一次派遣として電機連合から10人のメンバーが福島県に向かいました。道路にまではみ出したがれき、歩道を遮るように積もる土砂、流されてきた大木によって鉄骨だけになったビニールハウス。テレビで見た被災地の状況を目の当たりにし、戸惑いを隠せませんでした。被災地の一つである相馬市の松川浦漁港の造船所では、不慣れな作業でぎこちないメンバーもいるなか、散乱した発泡スチロールの撤去、腐り始めた海産物の廃棄作業を行いました。民宿のがれきや道路の土砂の撤去は、まさに土木作業でした。ほかにも支援物資の仕分けや避難所のパーテーション作りを行うなど、皆がアイディアを出し合い、被災地の手助けができた活動でした。

２０１４年からは東日本大震災を風化させない取り組みを進めるため、「被災地と心をつなぐ活動」をコンセプトに電機連合独自の「東北ボランティアin陸前高田市」を開始。未だ復興途上にある被災地住民の皆さんとの交流やボランティアを通して、自然災害の脅威や

2020年

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ボランティア派遣の中止を余儀なくされたため、「高田松原を守る会」に大型の草刈り機を寄贈しました。



防災の重要性を学び、未来を担う子どもたちとともに環境保全活動の重要性と環境保護の大切さを学ぶ機会をスタートさせました。

参加者（組合員と家族）は陸前高田市に赴き、津波によって流された高田松原の再生にむけた松の苗床整備、地元の七夕祭りへの参加、震災学習など様々な活動を行います。電機連合としては、この活動を通じて得た体験や被災地への想いを一過性のものとせず、参加者が各々の日常生活に取り入れ、家族や職場の仲間に伝え広げることもボランティア活動だと考えています。

2017年からは育ててきた松の苗を植える「高田松原再生ボランティア」も開始。高田松原の地にアカマツ、クロマツを植樹。NPO法人の地球緑化センターおよび高田松原を守る会と協力し3年で10000本の松を植えました。これは地元住民と、ボランティアに参加した仲間の協力がなければ達成することのできない本数です。この10000本が育ち、かつての姿に戻るまでには50年以上かかると言われていますが、その未来の姿を思い描き、目的を共有し、現地との相互信頼を重ねながら取り組みを継続していきます。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされましたが、現地ボランティアの人手不足を補うために、大型の草刈り機を寄贈しました。

これからも電機連合は、東北ボランティアを通じて、災害に対しての備えや次世代へ教訓をつなげ、環境保全や環境保護に取り組んでいきます。

あらためて確認！防災のキホン

「今」こそ見直そう 地震対策

いつどこで起きるか分からない自然災害。命を守るためには危険を知り、対策や備えを知る必要があります。ぜひ、この特集を機関紙など広報活動にお役立ていただき、防災活動の参考にしてください。

あらためて確認したい 基礎知識編

自然災害の被害を最小限にするためには、正しい知識が必要です。日頃の備えや地震が起きたときの行動など、防災の基本をあらためて確認しましょう。

日々の備え

の備えが大切です。労使による防災計画連絡方法などの確認、非常用持ち出し袋チェックしてもらえるようにまとめましお願いします。

- □ 備蓄品・非常持ち出し品を備える
- □ 備蓄品は定期的にチェックし、入れ替える
- □ 非常持ち出し品は、玄関や寝室などに置いておく
- □ 日頃から地域の防災活動に参加する
- □ もしもに備えて、火災共済・自然災害共済に加入する

●避難場所・避難経路を確認しよう

地震でドアが開かなくなることも考えられるので、室内から外への避難経路は複数のルートを考えておきましょう。脱出通路に障害になるものを置かないように注意します。

地震が起きたときは、避難所までの道が通行できない場合もあります。実際に歩いてみるなど、危険箇所を把握し安全なルートを確認しましょう。具体的に自宅から避難所までのマップを描き、危険箇所や避難時に役立つ情報等を書き込んでおくと良いです。

●連絡方法を確認しよう

被災した際、家族が離ればなれの場合は、自分の身の安全を確保したあとに家族の安否を確認しましょう。

被災地では、連絡手段が限られています。公衆電話等からも利用できるＮＴＴの「災害用伝言ダイヤル171」や、携帯電話の「災害用伝言板」サービスの活用方法を知っておきましょう。

災害用伝言ダイヤル
1 7 1
音声メッセージ録音／再生

災害用伝言板
Web171
で検索
メッセージ登録／確認

●非常用持ち出し袋を確認しよう

非常用持ち出し袋の中身を見直し、期限があるものは交換しましょう。また、非常時にすぐ持ち出せるところに置いておきましょう。

- □ 飲料水・食料品（非常食などレトルト食品）：3日分
- □ 衣類・下着
- □ 毛布・タオル
- □ 防災用ヘルメット・防災ずきん
- □ マスク・軍手
- □ レインウェア
- □ 懐中電灯・携帯ラジオ（※手動充電式が便利）
- □ 予備電池・USB充電器
- □ 洗面用具(歯ブラシ、歯磨き)
- □ 使い捨てカイロ
- □ 救急用品（ばんそうこう、常備薬など）

感染症対策にも有効です

- □ マスク
- □ 体温計
- □ 消毒用アルコール
- □ 石けん・ハンドソープ
- □ ウェットティッシュ

持ち出すときは一緒に

- □ 貴重品（通帳、マイナンバーカード、運転免許証、現金）
- □ 持病の処方薬

※子ども・高齢者がいる家庭の備え、女性の備えなど、詳しくは『災害の「備え」チェックリスト』（首相官邸HP）をご参照ください。

地震が起きたら

地震が起きたら、まず身の安全を確保することが何よりも大切です。ここでは、地震発生時～揺れがおさまった後の行動のポイントをまとめました。

地震 そのとき10のポイント

地震時の行動

Point① 地震だ！ まず身の安全

・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたときは、身の安全を最優先に行動する。
・丈夫な机の下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れが収まるまで様子を見る。

地震直後の行動

Point② 落ちついて火の元確認 初期消火

・揺れが収まってから、あわてずに火の元確認。
・出火したときは、落ちついて消火する。

Point③ あわてた行動けがのもと

・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意。
・ガラスの破片、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。

Point④ 窓や戸を開け出口を確保

・揺れが収まったときに、避難ができるようにしておく。

Point⑤ 門や塀には近寄らない

・倒壊の可能性のあるブロック塀などには近寄らない。

地震後の行動

Point⑥ 火災や津波確かな避難

・大規模な火災の危険性がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難。
・沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難。

Point⑦ 正しい情報確かな行動

・ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。
※詳細は後述の「情報収集について」を参照。

Point⑧ 確かめ合おう 我が家の安全 隣の安否

・わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認。

Point⑨ 協力し合って救出・救護

・倒壊家屋などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護。

Point⑩ 避難の前に安全確認 電気・ガス

・避難が必要なときには、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難。

災害が起きたときに冷静に行動するためには、日頃や危機管理体制の整備に加え、避難場所や避難経路、の中身など、重要なポイントを組合員一人ひとりにた。また、組合では安全衛生の観点からもチェックを

チェックリスト

- □ 家庭での防災会議
- □ 住宅の耐震化や家具の転倒防止対策
- □ 家の中で一番安全な場所の確認
- □ 防災マップ、ハザードマップを活用し、避難場所・避難経路の確認
- □ 家族との連絡方法の確認

●防災・危機管理体制が確立されているか確認しよう

職場での安全衛生の観点から下記についても確認してみましょう。

組織体制をチェック

- □ 労使協議などにおいて、防災のための計画や危機管理体制、施策について協議を行っている。
- □ 労使で定期的に防災訓練を行っている。
- □ 組合員、労働者の安否確認のための連絡体制が整備されている。
- □ 緊急連絡網の作成と周知ができている。
- □ 救急処置が行える近隣の病院、診療所の所在地などの把握ができている。

●帰宅困難者への対応

大地震が起きたとき、職場と自宅が遠く離れている場合は、しばらくそこでとどまることになります。とどまるための準備があるかどうか、地震に対して安全な場所はどこかを確認しましょう。

職場にとどまるための備蓄品の例

- □ 飲料水（1日3リットル／1人）
- □ 食料（1日3食／1人）
- □ 毛布やそれに類する保温シート（1枚／1人）
- □ 簡易トイレ、衛生用品
- □ 敷物（ビニールシート等）
- □ 携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池
- □ 感染症対策グッズ（手指消毒アルコール、マスク）
- □ 救急医薬品　など

●レスキューキット等の準備

職場では、緊急用簡易担架やハンマー、バールなどオフィス家具やがれきに挟まれた人の救出や開かなくなったドアを破壊するための工具や備品が収納されたレスキューキットがあると安心です。

避難経路や防災設備の位置、避難はしごがある場合は使い方も確認しておきましょう。

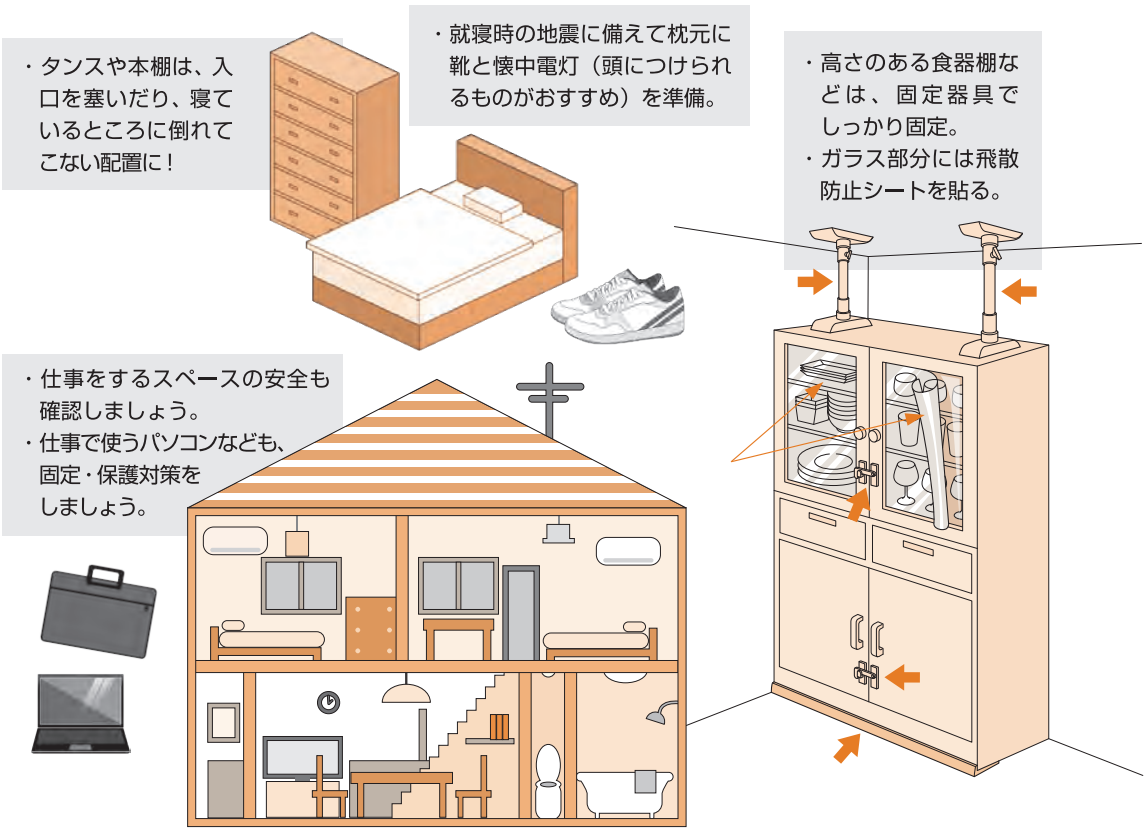
自宅編

自宅でも安全確保を

コロナ禍で、自宅で過ごす時間が増えている今、自宅でも防災対策が重要です。在宅勤務中や寝ているときに地震が来たら……。あらためて広報を行うなど、組合員の皆さんに対策を呼びかけましょう。

東京消防庁によると、近年発生した地震でけがをした原因の約30～50%が、家具類の転倒・落下・移動によるものでした。さらに、避難経路や出入口を塞ぎ、避難の妨げになることもあります。

また、自宅待機する場合には備蓄品が重要になります。チェックリストを参考に、家具類の転倒防止対策や備蓄品の準備の見直しを呼びかけましょう。



家具の転倒防止チェックリスト

- □ 冷蔵庫や家具類の上に、落下しやすい物を置いていない。
- □ 窓ガラスの近くに、大型の家電製品や家具を置いていない。
- □ テレビやレンジ、冷蔵庫などの家電製品は、ストッパーや固定ベルト、耐震テープなどの転倒・落下・移動防止対策を行っている。
- □ ガラスにはフィルムを貼るなど、飛散防止をしている。
- □ 収納物が飛び出さないよう、扉に開放防止器具を付けている。
- □ 重いものを、できるだけ下に収納している。
- □ 家具が転倒しても、避難経路を塞がない配置をしている。

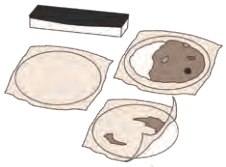
※免震構造のある建物は、大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下・移動する危険性が高いので特に注意！

備蓄品リスト

備蓄品は、災害復旧まで最低でも3～4日間を自足できるように非常用持ち出し袋（詳細は基礎知識編を参照）のほかに準備しておきましょう。災害後に取りに行けるよう、倉庫や車のトランクなどに分けて備蓄しておくと便利です。また、食料品は少し多めに買っておき、使ったらその分だけ買い足す「ローリングストック」がおすすめです。

備蓄品としてすぐ出せるように用意しよう

- □ 給水用ポリタンク
- □ カセットコンロ
- □ ラップフィルム
- □ 紙皿・紙コップ・割り箸
- □ ビニール袋
- □ 簡易トイレ
- □ 水のいらないシャンプー
- □ 工具セット・ロープ
- □ マッチ・ろうそく
- □ 長靴
- □ ほうき・ちりとり
- □ ランタン



ラップフィルムの使い方
ラップフィルムで巻くと食器を再利用できるだけでなく防寒具や包帯の代わりにもなるよ

正しい情報を知ろう

通勤編

組合員の皆さんの多くが交通機関を利用しています。電車の中や運転時の行動ポイントを知らせましょう。

地震はいつ、どこで起きるかわかりません。通勤などの移動中でも対処できるようにポイントをまとめました。情報収集ツールもあわせて組合員の皆さんに紹介してみてください。

○車の運転中

・揺れを感じたら…

①急ブレーキは禁物。前後の車に注意しながら減速し、道路の左側に停車。

②エンジンを切り、揺れが収まるまでは車外に出ず、カーラジオから情報を入手。

③避難の必要がある場合は、車のキーはつけたまま、ドアはロックせずに窓を閉める。

④連絡先を見えるところに書き、車検証などの貴重品を持って徒歩で避難。

○バスの中

・強い揺れを感じた場合に、危険を回避するために急ブレーキが踏まれることがある。

座席に座っている場合

…低い姿勢をとって頭部を鞄などで保護。

立っている場合

…転倒しないように手すりやつり革をしっかり握る。

⇒停車後は、乗務員の指示に従って行動。

○電車の中

・強い揺れを感じると電車は緊急停車する。

・地下鉄の場合、停電になっても非常灯が１時間程度は点灯するため、慌てずに行動。

座席に座っている場合

…低い姿勢をとって頭部を鞄などで保護。

立っている場合

…窓ガラスから離れ、車両中央に移動。転倒しないように手すりやつり革をしっかり握る。

⇒停車後は、乗務員の指示に従って行動。地下鉄によっては高圧電線が線路脇に設置してあるため、勝手に電車の外に出ると危険。

情報収集について

地震の揺れが収まり、身の安全確保ができたら情報収集をします。組合独自の安否確認ツールの準備はもちろんですが、東日本大震災直後、通信インフラ等が多大な被害を受ける中、SNSが情報伝達の手段として広く活用されました。情報収集のツールとして、政府のTwitterアカウントや防災アプリを組合員の皆さんに紹介してみてください。

災害時にネット環境がなくても大丈夫！

「00000JAPAN（ファイブゼロジャパン）」

大規模災害が起きたときに情報収集ができるように被災地域の方々に無料開放される公衆無線LANサービス

Twitterアカウント

○首相官邸（災害・危機管理情報）

@Kantei_Saigai

緊急地震速報や特別警報などを自動配信

○総務省消防庁

@FDMA_JAPAN

大規模災害が発生した際、消防関連情報をお届け

○防衛省・自衛隊（災害対策）

@ModJapan_saigai

自衛隊の災害派遣状況や生活支援情報をお届け

おすすめアプリ

○Yahoo!防災速報

・地震や津波など、災害情報をいち早くキャッチ

・自宅、実家など、最大で３ヵ所まで通知したい場所を登録可能

○防災情報 全国避難所ガイド

・全国の避難所＆防災情報がわかるナビゲーションアプリ

・現在地から半径1km以内の避難場所などを地図に表示

職場パトロールでも役立つ

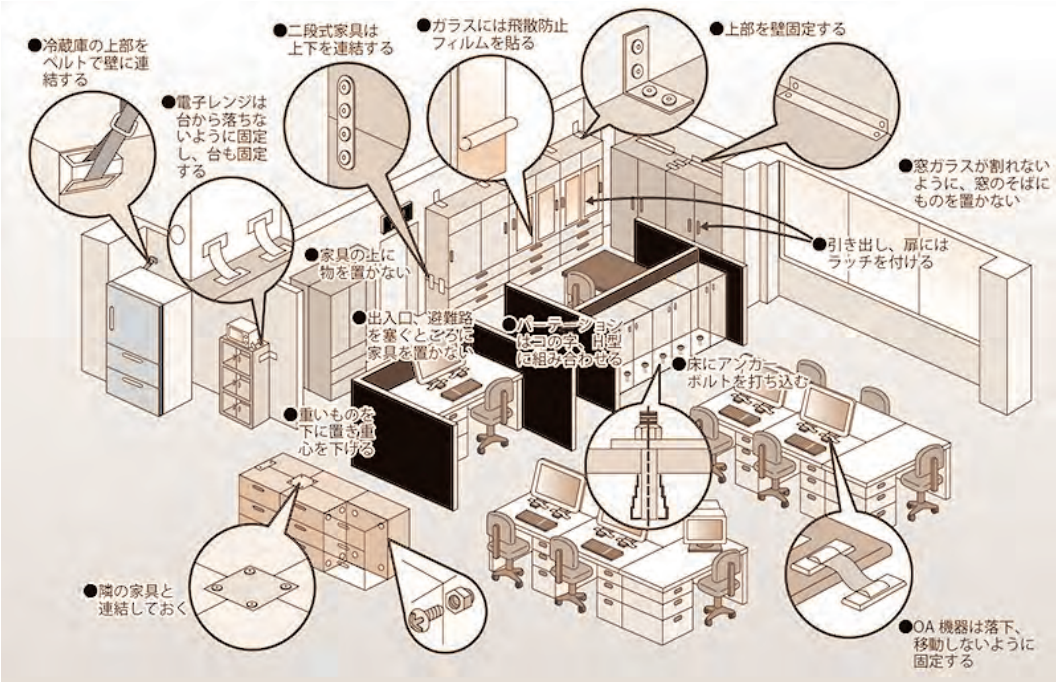
オフィス編

オフィスや事務所など、多くの組合員さんが働くスペースの安全確保は不可欠です。

職場におけるオフィス家具類の転倒・落下・移動防止対策は、地震時に働く組合員さんや訪れた人々の負傷を防ぐことに加え、大切なデータや書類などの経営資源を守り、事業継続を図る上でも大切です。

また、職場は帰宅が困難となった人々の一時的な避難所の役割を果たします。安全なスペースの確保、備蓄品などの準備があるか確認が必要です。職場パトロールなどの安全点検時に一緒に確認できるようにチェックリストにしたので、ぜひ活用してみてください。

●事務所の防災対策例



チェックリスト

- □ 背の高い家具を単独で置いていない。
- □ 壁面収納は壁・床に固定している。
- □ パーテーションは転倒しにくいレイアウトにし、床に固定している。
- □ ＯＡ機器は落下防止対策をしている。
- □ 引き出し、扉の開放防止対策をしている。
- □ 時計、額縁等は落下しないように固定している。
- □ ガラスには飛散防止フィルムを貼っている。
- □ 床につまずきやすい障害物や凹凸はない。
- □ 避難経路に倒れやすいものはない。
- □ 家具類の上に物を置いていない。
- □ 収納物がはみ出したり、重心が高くなっていない。
- □ デスクの下に物を置いていない。
- □ 引き出し、扉は必ず閉めている。
- □ 窓ガラスの前に倒れやすいものを置いていない。
- □ コピー機は適切な方法で転倒・移動防止対策をしている。

備えてもっと安心

●共済

もしもの時に備えよう

住まいる共済

火災共済・自然災害共済

風水害等給付金付火災共済・自然災害共済・個人賠償責任共済

自然災害共済

個人としてやるべきことの一つが火災共済・自然災害共済での備えです。持ち家の方はもちろんですが、家財の保障も忘れてはいけません。

●防災教育

いざという時、動けるようになろう

全国の各自治体にある防災体験館や防災センターでは、災害時の応急手当や消火活動など、いざというときに必要になる知識・技術を学べます。労組役員としていざという時に動けるよう、防災教育の一環として取り入れてみてください。

また、総務省消防庁のホームページ上では、誰でも無料で防災の知識や災害時の危機管理について学習できます。入門コース、一般コース、専門コースの3つのコースを用意しています。

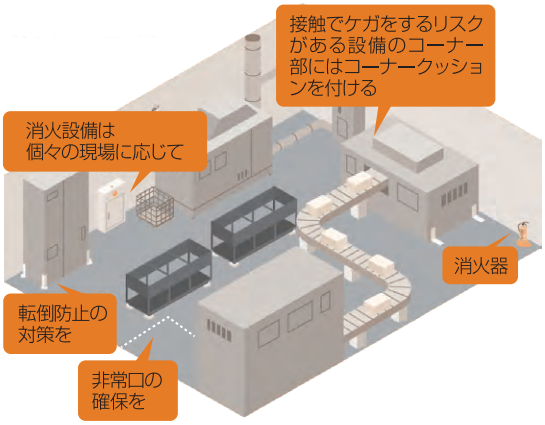
総務省消防庁ホームページ

https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/

職場パトロールでも役立つ

工場編

大きな機械や危険物を扱う工場などの職場では、それに合った対策が必要です。職場点検などで確認すべきポイントをまとめました。



大規模な地震があった際に、工場などの職場でも「落下・移動・転倒」に注意が必要です。大型機械の運用や、重量のある製品を取り扱っている職場では、設備や機械が破損するなどの被害が考えられます。

また、落ちてきた物の下敷きになり怪我をしてしまうといった人的被害も少なくありません。日常的な点検や、安全衛生委員会などでの地震対策のチェック項目として参考にしてみてください。

●工場での危険

①落下

・スチール棚など、商品保管用の設備が地震によって大きく揺れ、商品が落下。
・落下した商品の破損の他、下で作業している組合員が下敷きになるなどの人的災害。

②転倒

・壁などに固定されていない棚は、地震の揺れによって容易に転倒。
・商品の破損、組合員が下敷きになる、転倒した棚が機械にぶつかり製造用の機械が壊れるなどの危険。

③移動

・巨大地震が発生した場合には、数百キロあるような大型機械でも容易に移動。
・大型機械の移動は、周辺で作業を行う組合員の身を危険にさらしてしまうため、注意が必要。

これだけはチェック！

□ **大型機械や棚の固定**
・倉庫では、保管用の棚を壁などに固定する。
・たくさんの棚が並んでいる場合には、棚同士を連結させることで転倒防止にもなる。
・保管した品物が落下しない仕組みづくりも必要。
・大型機械は非常に重量があるため一度動くと止まらない。キャスターロック以外にも固定装具で動かないようにすることが望ましい。

□ **通路の確保・作業床の安全**
・設備間は大人が1人以上通れる幅を確保する。
・非常口につながる通路は大人が2人以上通れる幅を確保する。
・非常口の前、避難経路には物を置かない。
・作業床はつまずき、滑り等の原因となる段差や汚れなどをなくす。

□ **キャスターの固定**
・キャスターが付いている物は、移動時以外はロックやストッパー等で動かないように措置をする。

□ **緊急設備の対応**
・消火器の配置場所は再確認する。
・停止手順が決まっている設備もあるので、緊急停止方法が誰でもわかるように表示されているか確認する。

●危険物を扱う事業所では

地震による被害は、地震の規模、発生時期及び発生場所などによって異なることから、危険物を取り扱う事業所にあたっては、危険物の種類、数値、施設の規模、設備の形態に応じて、危険物施設の実態に合った対策を立てておく必要があります。

これだけはチェック！

□ 緊急停止弁を目立つようにしているか。
□ タンク等の落下防止措置は完全か。
□ 転倒、落下等による混合発火を防ぐため、混合したり、流出したりしないよう管理されているか。
□ 保護具や安全靴は人数分あるか。
□ 緊急時も静電気対策をしているか。

東日本大震災から10年。この間にも、熊本地震や北海道胆振東部地震などの大きな震災がありました。地震大国である限り、いつ地震が起きても大丈夫なように対策をする必要があります。労働組合としても、職場や組合員の皆さん一人ひとりにあらためて防災について見直すきっかけをつくることができます。労使が一体となって防災・減災に取り組んでいくことが大切です。

【参考・出典】「防災マニュアル」（総務省消防庁）／「職場の地震対策」（東京消防庁）／『災害の「備え」チェックリスト』（首相官邸ホームページ）／「できることから始めよう！防災対策」（内閣府防災情報のページ）／／「防災の手引き～いろんな災害を知って備えよう～」（首相官邸HP）／「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」（東京消防庁）／「震災時の帰宅行動　そのときあなたはどうする？」（内閣府）／